

2004 年度 委員会活動成果報告

(年 月 日作成)

委員会名	環境心理生理学用語集WG	主 査 名：山田 由紀子
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(企画刊行委員会)	委員長名：銚井 修一
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	学際的分野である環境心理生理は、英語の論文を書く場合や文献を読む場合など、訳読に困ることがある。そこで、この分野の用語の英訳及び和訳がすぐに分かる用語集を作ることを目的とした。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：山田 由紀子(明治大学)、幹事：辻村 壮平(明治大学)、小久保 隆之(明治大学) 有川 智(国土交通省国土技術政策総合研究所)、伊藤 俊介(東京電機大学)、岩田 利枝(東海大学)、大井 尚行(九州大学)、河口 豊(広島国際大学)、木村 通治(埼玉短期大学)、小島 隆矢(独立行政法人建築研究所)、園田 眞理子(明治大学)、橋本 修左(武蔵野女子大学)、堀 祐治(独立行政法人建築研究所)、村松 陸雄(武蔵野女子大学)、安永 幸子(学習院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	設置 WG：環境心理生理学用語集WG 学際的分野である環境心理生理は、英論文を書く場合や文献を読む場合などに困ることがある。そこで、この分野の用語の英訳及び和訳とその用語の微妙な使い分けの違いなどを(注)として掲載した用語集を作成することを目的とした。 この用語集は、研究者や学生、さらには環境心理生理の分野で活躍する人々に役立てて頂きたいと考えている。	
2004 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	開催日は月 1、2 回の割合で WG を開催している。全委員数は 15 人のうち、WG 参加人数は平均で 6~7 人 / 回である。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2003 年度中に全ての原稿は集まり、2004 年度からは、各分野で提出された用語に粗密があるので、それらの整合の作業を行なっている。重複、過不足、採用・不採用などを検討するため、委員が長時間(例えば、10 時~17 時など)集まり、幹事が全原稿をエクセルで整理したものを「あ」から順にチェックを行ない、全ての用語に簡単な(2~3 行程度の)説明や英訳のニュアンスの違いなどを記入することが決定した。現在の進捗状況として、五十音順で「は」で始まる用語までのチェックを終えている。また、各学会により、英訳が異なっていたり、間違っていたりするので、バイリンガルの委員も含め、全ての用語について一語ずつ検討を行なっている。</p> <p>これまでと同様に、2005 年度も残りの用語に関して一語ずつ検討を行ない、2005 年 9 月刊行に向けて全てを完成させる。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初(2004 年度)の活動では、2005 年 3 月に刊行を予定していた。しかし、全用語に簡単な説明(42 文字程度)をつけること、掲載する用語数が制限されることが決定し、そのために刊行が遅れた。内容に関しては、さらに洗練されたものとなると考えられる。</p> <p>なお、現在、約 10000 語のうち約 8900 語程度の検討を終え、残り約 1100 語程度について 2005 年 6 月までには検討を終え、2005 年 9 月刊行に向けて全てを完成させる。</p>
その他評価すべき事項	『建築・環境心理生理学用語集』というタイトルではあるが、物理的な用語や単位など、基礎的な用語についても掲載する予定である。さらに、WG が長時間にわたるため(10:00~17:00 など)、平日は当然ながら、日曜や祝日でも WG を開催している。